

# 下関市立大学広報

## ゼミ特集臨時号



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人

### 下関市立大学

Shimonoseki City University

2016年12月1日 ゼミ特集臨時号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>

# 下関市立大学

# ゼミの重要性

国際商学科 准教授 山川 俊和  
(広報委員会副委員長)

## 大学におけるゼミ

昨年に引き続き、広報臨時号では下関市立大学のゼミ(専門演習)を特集しました。多様で魅力的なゼミを、学内外に広く知ってもらうことを意図しています。ゼミの内容は、文献の輪読、理論的・統計的な方法についての学習と活用、フィールドワークなど様々ですが、いずれも、現代の学術的・政策的課題にチャレンジする興味深いものばかりです。なお下関市立大学では、2015年度から新カリキュラムに移行し、より体系的に学べるように工夫されています。また、各学年にゼミを配置し、少人数教育を充実させました。来年度は、新カリキュラムの1期生が専門演習を履修する年です。この臨時号が、学内外の皆さんに有益な情報を届けるとともに、新3年生のゼミ選択の参考になれば、とても嬉しいことです。

私は、ゼミとは「場」であると思います。教員と学生が真剣に向き合い、知的に悩み・格闘する舞台です。相手を蹴落とすことが競争ではありません。勝ち負けではなく、ライバル心と仲間意識を兼ね備えて、互いに切磋琢磨しましょう。ゼミという場で起きる、メンバー間の「化学反応」こそ、大学における学びの醍醐味です。



# 経済学科

嶋田ゼミ

経済学科 講師 嶋田 崇治

## ファクトによる裏付けと「べき論」への挑戦

本ゼミでは、主に財政、地方財政について学びます。具体的には輪読、議論、現地調査、合同ゼミ、卒業論文の執筆などを行います。輪読を通じて知識の蓄積と問題意識の向上を図り、議論を通じて批判的姿勢とゼミ内の連帯感を涵養する。その上で2016年度は過疎地域の実態を把握するために周防大島で調査を行い、大阪で開催された七大学共催の合同ゼミでの報告を行いました。学生からは現地調査を通じて得たファクトを出発点として、過疎地域の抱える問題解決のためのひとつの方策として「移住税」という提言がなされました。学者を育てるのであればファクトのみを提示するよう指導しますが、これから不確実性の高い社会に出る学生にとって一層求められるのは主体性と創造性の向上だと僕は考えます。これは単に「べき論」を提示することを意味するのではなく、その提言の正当性を裏付けるファクトの重要性を学び、それを模索する99%の主体的な努力の内に1%の創造的な提言が得られることを意味します。こうした経験が学生を大きく成長させる、そう僕は考えています。



田中ゼミ

経済学科 准教授 田中 裕美子

## 現代の労働問題を社会政策の視点から学ぶ

私たちの多くは企業などに雇われて働き、賃金を得て生活しています。こうした「雇用社会」においては、労働者はさまざまな問題に直面します。たとえば、最近では、ブラック企業やブラックバイトなどが話題になっています。日本的雇用慣行の変容や同一労働・同一賃金も議論にのぼっています。こうした現代社会における労働問題について社会政策の視点から学びます。

ゼミでは、グループごとに質問班・報告班と役割分担を決めています。テキスト報告の1週間前に、質問リストを作成して報告班に渡します。報告班は、それを踏まえて補足したうえで報告を行っています。こうした活動を通じて、社会問題を分析するための知識を習得します。また、専門知識を得るだけでなく、知識を知恵に変え、新しい社会を切り拓いていく力が必要です。そのためにも、他流試合が必要と考え、毎年、他大学との合同研究報告会も実施しています。

社会では、受け身ではなく、自ら積極的に課題に取り組むことが求められます。ゼミでは、自ら課題を見つけ、考え、解決の糸口を探す力を身につけることを目的にしています。



難波ゼミ

経済学科 教授 難波 利光

## コミュニケーション力による福祉のまちづくり研究

少子高齢化および人口減少の問題は顕著になり、福祉に関する問題は多くなってきています。ゼミでは、皆が住みよくなる社会を考えます。その視点は2つです。一つは、社会保障に関する財政問題、一つは、まちづくりに関する地域経済問題です。2つの問題を学ぶために、実際に地域に出て、多くの人と話し様々な企画を考え、現状を肌身で感じます。また、現実の地域問題を抽出しながら、問題解決のために専門的な知識を学びます。学習は、グループで行い、企業で求められているチーム力をつけます。ゼミでの経験は、就職先で顧客となる消費者や住民への意識を十分に学べていることから、企業や官庁が必要とする人材のキャリアを身につけられます。また、社会実態と理論を学ぶことから説得力のある説明ができるようになります。社会実態の認識は、日常生活でも情報を自主的にできる人材がより深めることができると思われます。すなわち、ゼミでは、地域住民との対話によりコミュニケーション力を高め、論理的なグループによるプレゼン能力を高めることができます。





森(邦)ゼミ

経済学科 准教授 森 邦恵

## 経済学を通じて、人間と向き合う：応用ミクロ経済学ゼミ

本ゼミでは、様々な社会現象を理論と実証によって分析します。ミクロ経済学の扱う範囲は広く、卒業論文では「観光」「交通」「環境」「情報」のほか、「スポーツ」「恋愛」「芸能」の話まで検証対象です。

これらのテーマに共通しているのは全て「人間によって現象が発生している」、ということです。2002年ノーベル経済学賞で注目された行動経済学をはじめ、伝統的な経済学、ゲーム理論などから、人間の行動原理を理解することを目標としています。ゼミ企画の一つとして、これらの理論が実際に通用するかどうか、大学内外で実験を行うこともあります。ゼミ生自らが結果を出すための方法を模索しやり遂げる、という「自主自立」の姿勢を大事にしています。

個性豊かな学生たちが、お互いを尊重しあうゼミ内の雰囲気は卒業後も続いていて、昨年行われた同窓会には、多くのゼミ生たちが全国から集まり盛り上がりました。ゼミ生たちに心から感謝するとともに、社会に出てからも何らかの心の支えになるゼミであるよう、これからも努めたいと思います。



森(祐)ゼミ

経済学科 教授 森 祐司

## 金融経済を「企業」や「地域」の角度から考えるゼミ

ゼミでは、金融経済や企業分析など、金融に関するテーマについて、学習していきます。ゼミ活動は個々の参加者の目標設定と参加者間の切磋琢磨の場を提供することが目的です。

具体的には、株式投資を通じた企業分析やポートフォリオ分析を「株式学習ゲーム」というシミュレーション・ツールを利用して学習していきます。また、金融機関や金融経済についての調査を行い、外部団体の「懸賞論文」に投稿していくことも、ゼミ活動の大きな柱のひとつです。

これらゼミ活動の中で、読書の方法、文章の作成、情報整理、パソコンを使った情報収集や情報交換の方法、プレゼンテーションの技能、グループでの円滑な協力作業の方法について実践的に身につけていきます。卒業論文は、それら身につけたスキル、知識等を用いて、自ら設定した課題について調査分析したプロセスの集大成です。

ゼミでの活動を通して自らの価値を高め、社会人になっても向上心を持ち研鑽していけるようになることや、他のゼミメンバーへの貢献を大きな目標にしています。



### 学生に聞きました！

### あなたのゼミはどんなゼミ？

## 現代日本の政治課題を研究する

経済学科4年 金出地 真  
(岡山県立倉敷天城高等学校出身)

関野ゼミは、現代日本の政治課題について幅広く学習しています。医療や保育など社会保障改革、ブラック企業や長時間過密労働、成果主義、税制改革と財政危機、リーマン・ショックと金融危機等、幅広く学習し、その上で各々が取り上げたい課題について卒業論文を作成します。私は、ブラック企業問題に関連して「働き方」改革について研究しています。私はこの研究を通じ、終身雇用、年功制、新規卒卒者一括採用といった「日本の雇用」が動揺し、解雇規制の緩和、完全な成果主義、即戦力採用といった新たな「働き方」へ変化した意味を分析しています。この研究は、これからの企業社会が求める能力の変化を知ることであり、就職活動、さらに職場生活への準備を「覚悟」する機会にもなりました。また、私たちのゼミは、毎回発表者のみが成果報告するのではなく、全員が「予習メモ」というミニレポートを作成、発表、提出します。この作業を続けることは、責任を持って準備する能力、わかりやすく報告する能力、より本質的な問題を抽出する能力を鍛える機会になりました。

関野ゼミ



# 国際商学科

岡本ゼミ

国際商学科 教授 岡本 次郎

## 「経済と政治の相互作用」の視点から国際問題を分析する

このゼミは、国際政治経済学を共通の土台としつつ、視野を国際社会に向けて問題を発見し、分析課題(問い)を設定して、その問いに論理的に答えていく力をつけることを目標にしています。

政治経済学は、経済と政治の相互作用の産物である「政策」を主な分析対象とする学問分野ですが、「国際」政治経済学ではその分析射程を世界に広げます。ここ20年ほどのグローバル化によって国内経済と国際経済の垣根はどんどん低くなっており、それに伴って国内政策と国際(対外)政策の間の線引きもますます難しくなっています。それは、貿易、投資、人の移動、対外援助などを含め、このゼミのゼミ生が対象に設定できる分析課題の範囲が広がっているということでもあります。

ゼミでは、3年生はまず輪読を通して国際政治経済学の基本的な理論と分析方法・対象を学びます。その後、グループ及び個人による作業を繰り返すことで、学術的な発表・論文執筆のスキルをしっかりと身につけます。3年終了時に2000字程度の卒論プロポーザルを完成させることを目標とします。4年生は、プロポーザルに沿って卒論執筆を進めていきます。



高橋ゼミ

国際商学科 教授 高橋 和幸

## 会計情報で会社をリアルにとらえる

私のゼミでは、会計学を学びます。1、2年次で学んだ簿記・会計の知識をふまえ、輪読をベースに進めています。よく知られた企業の決算書を取り上げたテキストをもとに、各企業の経営の結果がどうだったのかや、収益性、将来性がどのように読み取れるか検討することで、捉えることの難しい企業の実態へ客観的な数字を通してアプローチし、会計の重要性の理解を深めていきます。

輪読の際の報告は数人一組の班のメンバーで協力して行うようにし、これにより、チームで取り組む力や発信力などを意識していくようにしています。そして、ゼミで学んだ力の「見える化」ともいえる、簿記検定受験の意義について多くが認識できるようになることから、ゼミとしてそのあと押しもしています。

会社をリアルにとらえる中でのゼミ活動となりますから、会社というものが具体的にイメージでき、自ずと就職への意識や業種への興味も深まり、例年、早めの就職活動の準備へとつながっているようです。



中川(圭)ゼミ

国際商学科 准教授 中川 圭輔

## 経営学の範囲内で自説を提唱する

本演習の目標は、経営学の範囲内で自由に問題設定をし、自説を提唱できる力を養うことです。そのため、経営学の特定分野の専門性を高めるといったことはしていません。

基本的な演習活動は、受講生が自身のテーマに関する内容を毎時報告し、それについて受講生どうしで意見交換をすることです。加えて、受講生が最近気になっている時事問題を持ち寄り、互いに議論し合う時もあります。また、受講人数が多い年は、適宜グループを作り、チームワークを活かしたグループ発表も実施しています。

学期末には演習内で論文発表会を開催し、年間の研究成果の集大成を披露しています。そして、最終回では論文品評会と称して、完成したレポートや卒業論文を持ち寄り、受講生で読み合いながら評価をします。

年間の演習活動を通して、文章力の向上はもちろんのこと、情報収集力やプレゼン力、質疑応答力なども養います。さらに、毎時の演習の進行自体を受講生に一任しているため、司会進行力(場回し力)、時間管理力、議事録作成力といった一連の社会人スキルも同時に身につけます。





## 萩原ゼミ

国際商学科 教授 萩原 久美子

## 働くーその不安と希望の未来と

なぜ私たちは働くのでしょうか。その問いは人間とは何か、社会とは何かという問いであり、私たちはこれからどこへいこうとしているのかという問いでもあります。

本演習は“労働”をフィールドに、ダイナミックな今の鼓動を感じることから出発します。ポスト工業社会における労働時間管理、非正規雇用問題、最低賃金制度、キャリア教育の陥穽、外国人労働者とグローバルエコノミー、少子高齢化と労働の行方……。仲間との議論や共同作業を味方に、こうした難問に一步踏み込んでいきましょう。

文献講読とレポート作成を通じ、基礎概念の習得と論理的な考察力の育成を目指します。労働・社会問題に取り組んでいる社会人を招き、話を聞く。その現場にも足を運び、考える。そうした取り組みをもとに、働くという営みを読み解くことでマクロな社会変動と、よりよい未来の構想へと接近します。



## 柳ゼミ

国際商学科 教授 柳 純

## マーケティング戦略について学ぶ

私のゼミでは、企業等のマーケティング戦略について研究しています。近年、製造業に限らずサービス業や商業、あるいは非営利組織などもマーケティング研究の対象になっています。特に日本小売企業の国際展開が進展しており、ゼミのテーマで「小売企業の国際マーケティング活動」を取り上げることがあります。また、卒業論文に「大規模小売企業のPB(プライベート・ブランド)商品の開発事例」を執筆する学生もいます。

ゼミの進行状況は、3年次からのテキスト輪読(春学期)、課題研究(秋学期)のグループ報告を基本とし、4年次には3年次に引き続き序論部分以降の執筆・校正を重ね、秋学期早々の中間報告(3・4年合同)を経て、最終的に卒業論文を仕上げます。

本ゼミの特徴は、3年次前半で卒論テーマを決め、その概要、序論部分を1年で仕上げるとい卒業論文の指導を早くから行っているところです。そして、学生にとっては、基礎的知識をさらに応用力へと活かす訓練やグループの結束力の涵養につながっています。



## 学生に聞きました!

## あなたのゼミはどんなゼミ?

学び、考え、伝える  
～皆で成長できるゼミ～

山川ゼミ

国際商学科4年 中村 瞳  
(福井県立武生東高等学校出身)

(1) グローバル経済を学んできました。日本、そして世界で起きている様々な諸問題に対して、国際政治経済学的視点から考察していました。山川ゼミでの学習を通じて、日々の政治経済ニュースや問題に対して積極的に興味を持つようになりました。また、メリットとデメリット(課題)を客観的に考えること、明確なメッセージを開き手に伝えることの重要性を意識するようになりました。

(2) 毎回のゼミの時間では、毎週数名のゼミ生が1つ新聞記事を選びパワーポイントを用いてプレゼンテーションしたり、少人数のグループに分かれて課題図書(例:ダニ・ロドリック『グローバリゼーション・パラドクス』)の輪読を行ったりしました。ゼミ関係のイベントも多く、同志社大学で開催された合同ゼミ論文発表会に夏と冬の2度参加したり、上級のゼミ生とディベートの真剣勝負をしたりしました。勉強の他にも、スポーツ大会を開催したり、工場見学に出掛けたりしたことで、ゼミ生同士の絆が更に深まりました。私自身の卒業論文では、労働力移動の政治経済学で著名なサスキア・サッセンの理論を軸に、大都市「東京」における移民流入は20世紀と21世紀でどのように変わったのかをテーマにしています。



# 公共マネジメント学科

川野ゼミ

公共マネジメント学科 教授 川野 祐二

## マネジメント能力と戦略センス

経営学を総合的に学び、マネジメントと戦略思考のセンスを身につけます。

テキストをペースメーカーにして、ゼミ生は複数の資料を使った追加調査を行います。理論や事例分析のレポートを提出し、持ち寄ったレポートをチームで検討、発表資料を作ります。演習では各チームがプレゼンテーションを実施、発表内容を競い、互いに質疑を發します。発表チームは、質問を予測して回答を事前に準備、丁寧な解説を行うとともに、当日のテーマについて議論を展開します。

ゼミの学習目的は、経営学の専門用語と理論に習熟、各人の調査能力とチームワークを鍛え、プレゼンテーションと質疑応答の技量を格段に向上させることです。事例対象を選び出す卓越した観察眼、対象とした経営体と業界を注意深く調べ上げる忍耐力、しかもそれを大胆に分析する感性も必要です。仲間とともに日々精進しようと思う人に参加してもらいたいと思っています。

マネジメントに求められる総合力を習得し、準備万端で社会に臨み、世間の荒波に自立する人材を目指します。



桐原ゼミ

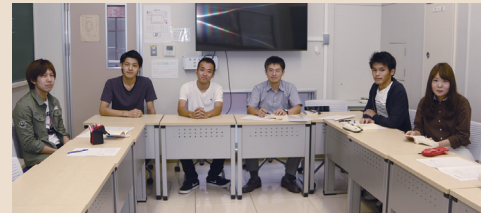
公共マネジメント学科 教授 桐原 隆弘

## 危機を打開するために「役に立つ」(?)公共哲学ゼミナール

経済学部出身でありながら、難解な書物を読んで考える楽しみだけを求めて大学院の哲学科に進学した私は、「哲学は(将来)何の役に立つのか」という問いに幾度も直面してきました。最近になってようやく私は、哲学は人生と社会の「危機」に際してこそ「役に立つ」学問だという一つの答えに至りました。

危機はいま、日常のどこにでも潜んでいるともいえます。都市の生活環境が複雑に変化するとともに、災害やテロへの脆弱性があらわになっています。また現世代(自分自身)の利得を最大化しようとするあまり、財政、資源、環境などをめぐる将来世代の損失が顧みられなくなっています。こうした大きな問題だけでなく、日々の生活の中でも直面するさまざまな難問を解決しようとするとき、問題の本質を借り物ではなく自分自身の言葉で考え抜くことが求められます。そのようなときにこそ、哲学を学んで身に着けた教養が一本の柱となって人を支えると思うのです。

私のゼミではこのような観点から、古今東西の古典書の輪読とディスカッション、そして卒論指導を行っています。



菅ゼミ

公共マネジメント学科 准教授 菅 正史

## 都市の見方・考え方(都市・地域計画)

「都市計画」は、様々な施設をどこに・どのように作ればよいか、それぞれの場所をどのように利用すればよいかなどを考える学問です。都市の「あり方」は、長期の将来にわたり、そこで営まれる人々の生活や経済活動全般に大きく影響します。そこに住む人の合意を得ることも必要です。そのため、「好き嫌い」「自分の価値観」だけで都市の将来を考えることはできず、その時代・都市が置かれた状況を体系的に整理し、総合的に考える必要があります。

本年度の春学期は、実際の都市を「見る」練習を行った後、教科書で都市計画の考え方の基礎を学びました。秋学期は、現地調査やGIS等による都市の分析を練習した後、市内の具体的地区を対象に、その将来像を考える課題を予定しています。

「知識」は、大学以外の様々なところから学べる時代になりました。そこでゼミでは、自分の知覚や感性も使いながら、現実の都市の姿を捉え・考える機会を提供したいと考えています。





## 学生に聞きました! あなたのゼミはどんなゼミ?

水谷ゼミ

### Let's try 地方創生

公共マネジメント学科4年 松野 翔  
(近畿大学短期大学部出身)

私は地方創生に興味があり、水谷先生のゼミを選びました。大きな問題となっている「田舎」をテーマに現状・課題・可能性について皆で意見を出し合い、田舎を田舎で終わらせるのではなくどうすれば活性化するかを前向きに考え、どの地域にも何かしらの可能性があるということ学びました。

また教室で討論するだけでなく、山口県の長門市、周防大島町に足を運び積極的にフィールドワーク・現地調査を行いながら実際に現状・課題を自分たちの目で確かめ、可能性を皆で共有することができ、自身の知識をさらに深めることもできました。

これから自身の研究の集大成として、出身が長崎ということもあり五島列島や壱岐、対馬を中心に「Re島プロジェクト～離島の魅力と課題と可能性～」をテーマに卒業論文を作成します。このゼミで学んだことを活かして物事を多面的にとらえて、離島の魅力と可能性を再発見できるように取り組みたいです。



### 山本ゼミ

公共マネジメント学科 講師 山本 真敬

### 憲法学や行政法学の基礎を学ぶ

わたしのゼミでは、憲法学や行政法学について、文献や判例などを丹念に読み、それを受講生みんなで議論することにより、憲法学や行政法学の基礎的な知識を理解・定着することを目標としています。

ゼミ生がみんなで文献や判例を選び(もちろん教員がアドバイスをします)、担当者を決めて要約+疑問点等を整理・発表し、みんなで議論するというのがゼミの基本スタイルです。この過程で特に重視しているのが、「なぜそのように考えるのか」という視点です。また、ゼミでは、憲法や行政法についての知識はもちろん、適宜、レジュメの構成やメールの作法などもお伝えしています。ちなみに、2016年度春学期は、憲法の文献を講読しました。公務員試験の受験を考えている人に限らず、「法的なものの考え方」は社会で生きる人すべてにとって重要ですので、その一端をみんなで学び、自らのものにすることができればと考えています。2016年度に開講したゼミなので、まだゼミ生は少ないですが、みんなで良いゼミを作り上げてほしいと思います(ゼミの主役はゼミ生です!)



## 基礎教養

### 佐藤(裕)ゼミ

基礎教養 准教授 佐藤 裕哉

### 地域について調べ、地図に残す仕事(ゼミ)

『地図に残る』仕事』、だと某総合建設業のコマーシャルですが、私のゼミでは地理学の視点から地域について調べ、その結果の地図化(=地図に残す)などを行っています。主な活動は、文献輪読、地図作成、統計データ処理、フィールドワーク、まとめ(プレゼンテーション・文章化)です。多面的に物事を捉えてほしいので、上記の活動は、すべて大事なのですが、私が特に重視しているのがフィールドワークです。3年次は3~4人でグループを組み、地域の方にインタビュー調査を行います(なお、4年次は各自のテーマに沿って1人で調査を行い、卒業論文を作成します)。

知らない人と話をするのは、そういったことに慣れていない学生のみならずにとっては大変だと思います。しかし、フィールドワークを終えると、皆、見違えるように成長しています。地域に出向き、そこで頑張っている方と話をするのが良い刺激になっているからでしょう。また、こういった経験は、就職活動やその後の社会人生活にも活けると考えています。

さて、みなさんはどんな地図を描きたいですか?



# 専門演習一覧

経済学科	加来 和典	准教授	都市社会学の視点で、都市の構造や文化、住民の社会関係や意識を探究しています。	
	佐藤 隆	准教授	ゲーム理論を応用して、様々な産業における企業の戦略的行動を考えます。	
	嶋田 崇治	講師	文献輪読、現地調査、合同ゼミへの参加を通じて現代の財政問題に迫ります。	
	素川 博司	准教授	日本経済の種々の問題点を、GDPなどマクロ経済学の言葉で考え分析します。	
	杉浦 勝章	准教授	地域の問題に対して地域政策がどのように機能しているか、理論と現実両面から考えます。	
	関野 秀明	教授	アベノミクスと貨幣流通論、金融危機と恐慌論など統計事実と古典理論とを往復し学びます。	
	外戸保 大介	准教授	地域の産業や経済・社会について、経済地理学の視点から分析する手法を学ぶゼミです。	
	田中 裕美子	准教授	現代社会を生きる際に直面するさまざまな困難について、社会政策の視点から考えます。	
	中川 真太郎	准教授	学生自ら日本経済や社会の問題を実証的に分析し経済学の視点から政策提言を行います。	
	難波 利光	教授	社会保障とまちづくりについて、福祉と経済の目線から地域に向いて考えます。	
	濱田 英嗣	教授	水産等一次産業(食料経済)の過去・現状・将来をテーマにゼミを組み立てています。	
	森 邦恵	准教授	ミクロ・計量経済学の分析手法の習得を基本とし、身近な経済現象について検証します。	
	森 祐司	教授	金融経済の調査や企業評価分析など、金融に関連するテーマについて考察していきます。	
国際商学科	飯塚 靖	教授	金融制度についての基礎的知識を身につけ、さらに日本と中国の金融制度の特徴を探ります。	
	岡本 次郎	教授	「政治と経済の相互作用」をキーワードに、現代の国際問題を分析していきます。	
	久保 佳納子	講師	企業やビジネス活動の中で生じる様々な問題を、法律的観点から研究しています。	
	島田 美智子	教授	会計の仕組みと考え方を理解するとともに、会計制度の変化・移行の意味を考えます。	
	高橋 和幸	教授	会計制度の基本的論点を検討し、ビジネス社会での会計の重要性について学びます。	
	土屋 敏夫	教授	使いやすいモノとはどのような商品なのか、実験や分析を通して明らかにしていきます。	
	中川 圭輔	准教授	経営学の範囲内で受講生が自由に問題設定をし、自説を提唱できる力を身に付けます。	
	西戸 隆義	准教授	主に金融の問題について研究します。研究成果は12月に証券ゼミナール大会で発表します。	
	萩原 久美子	教授	労働からの解放か、排除か。社会変動の中にある「労働世界」の行方を考えます。	
	平山 也寸志	教授	民法に関する判例や社会問題などについてグループ討論をします。	
	松本 義之	教授	企業や社会において、利用されている情報システムとその活用例について学習します。	
	村田 和博	教授	経営管理論と経営組織論に関する知識を深めるゼミです。就職活動への支援も行っています。	
	森 幸弘	教授	企業の価値創造、競争優位の確立という視点から、「ブランド戦略」をとりあげています。	
	柳 純	教授	企業等のマーケティング戦略や商業経営に関する研究に取り組んでいます。	
	藪内 賢之	教授	科学的なマネジメント、システムの最適化、情報システムについて学びます。	
	公共マネジメント学科	山川 俊和	准教授	グローバル化する世界経済について、格差と持続可能性の問題を中心に考察します。
		足立 俊輔	准教授	実務の会計を理解するために、コンサル向けに書かれた会計の本を輪読しています。
叶堂 隆三		教授	現代社会の諸側面をテーマに選び、文献の講読や巡検を通して理解することをめざします。	
川野 祐二		教授	マネジメント能力と戦略的センスを身につけて、あらゆる問題の解決に挑みます。	
桐原 隆弘		教授	社会問題について哲学する！をモットーに、輪読と個人発表を通じて思索を深めます。	
菅 正史		准教授	日本の都市の課題について、各都市固有の事情も考慮しながら、実証的に考えます。	
松本 貴文		講師	授業は文献の輪読が中心ですが、課外活動等フィールドで学ぶ機会も提供しています。	
水谷 利亮		教授	「田舎」の地域づくりの現状と課題と可能性を議論とフィールドワークを通して学びましょう！	
山本 真敬		講師	憲法学や行政法学の文献や判例を丹念に読み、受講生みんなで議論します。	
横山 博司		教授	ゼミでは、消費行動や社会病理、教育問題に関するテーマについて、各自がテーマを決めて研究します。	
基礎教養	櫻木 晋一	教授	文献史料や考古資料などの史料論を基礎にした日本史研究の最前線を学びます。	
	佐藤 裕哉	准教授	地図作成やフィールドワークなど地理学の手法を用いて地域について調べ、考えます。	
	鈴木 陽一	准教授	変化を続ける現代経済の背後には国際社会の変容があります。これを掘り下げ学びます。	
	橘 誠	准教授	本ゼミでは、ゼミ生自らが関心のあるテーマを選択し、歴史的視点から追求しています。	